

◆実践問題17◆

〔延喜の帝は、信貴山にいる靈験あらたかな聖のもとに蔵人を派遣した。〕

3 が 3
行きて見るに、聖のさま、いと尊くてあり。「か

1 が 2 S
うかう宣旨にて召すなり。参るべきよし言へば、

2 は
聖「なにごとに召すぞ」とて、さらに動く気もな

3 は 1 が 1 が
し。「かうかう御悩み大事におはします。祈り参ら

S
せたまふべき」よしを言へば、「それはた参らずと

も、こながら祈り参らせ候はむ」と言へば、「さ

ては、もしおこたらせたまひたりとも、いかでか

2 を
この聖の験知るべき」と言へば、「もし祈りやめ参

4
らせたならば、剣の護法といふ護法を参らせむ。お

1 が S
のづから、夢にも幻にも、きと御覽ぜば、さらば知

S
らせたまへ。剣を編み続けて衣に着たる護法なり」

2 が
と言ふ。「さては京へはさらに出で」と言へば、

3 は K
帰り参りて、「かうかう」と申すほどに、さて、三

1 が
日ばかりありて、昼つかた、きとまどろませたま

S
ふに、きらきらとあるものの見えさせたまへば、

S
「いかなる人にか」とて御覽ずれば、「その聖のい

4
ひけむ剣の護法なめり」と思し召すより、御心地

S
さはさとはならせたまひて、いささか苦しきこと

S
もおはしまさで例さまにならせたまひにたれば、

5
人々も喜び、また聖をも尊がり、めであひたり。

1回目

2回目

3回目

4回目

5回目